

天溪 2024 年「花のアルプスハイキング 10 日間」

2024 年 欧州ハイキングツアーが「花のアルプスハイキング 10 日間」 7 月 1 日～7 月 10 日 から始まりました。今年のアルプスの村々は暖冬と聞いていましたが、冬が終わった 5 月ごろに天候不順が続き、時には降雪も有った様です。そんな訳で私達が最初に訪れたイタリアのチェルビニアでは一部スキーが可能なくらいの残雪でした。ニュースでお聞きかも知れませんが、ツェルマットは 6 月 20 日の豪雨で VISP～テシュ間の登山鉄道がダメージを受け運休中。(バスが代行輸送、8 月 26 日迄に復旧予定) 一方、マッターホルンの反対側に位置するチェルビニアの豪雨は 10 日ほど遅く、私達が到着する 4 日前の 6 月 29 日夜中の事でした。豪雨は氷河の雪解けを誘いながら村を襲い、冠水した道路は煙の様な砂ぼこりが舞い上げていました。



(快晴のマッターホルン 7 月 8 月)

○チェルビニア/クールマイユール

以前お伝えしましたが、マッターホルンは三つ名称が有り、スイスのドイツ語圏はマッターホルン、スイスのフランス語圏はモン・セルバン、そしてイタリアはモンテ・チェルビーノ。このツアーの企画コンセプトは〈イタリア/スイス両側からマッターホルンを眺め、その間に西欧最高峰のモンブラン 4810m を望む〉。

残念ながらチェルビニアではモンテチェルビーノの頂は大部分が雲の中でしたが、ところ変わってクールマイユールに移動すると雲は取れ、シェクルイのコルでは荒々しいイタリア側のモンエビアンコ(仏名:モンブラン)を快晴と共に堪能できました。私的な事を言わせていただければシェクルイのコル上部から見るイタリア側のモンテ・ビアンコは素晴らしいです！



(モンテ・ビアンコ シェクルイのコル上部 7 月 4 日)



(水が引かないチェルピニア)



(アネモネ)



(グランドジョラス)



(アルペンローゼ)

○シャモニ/モンタンベール

モンブラン直下を貫く全長 11.6Km のモンブラントンネルを通りフランスのシャモニへ。ロープウエーでプランプラに登り、パラグライダーのテイクオフを見て、辺り一面アルペンローゼが咲く斜面をシャモニ谷越しにモンブラン山群を眺めながらフレジュールまで天井のハイキングを続けました。

その後、シャモニ駅から登山電車でモンタンベールに登り 1000mの絶壁を持つドリユーを正面に眺め、明日は雨マーク付きの予報から予定を前倒してシグナルに向けハイキングを続けました。翌日の天気予報は当たりでエギュードミディのロープウエーは霧の為に運休でした。

※このツアー中に雨らしい雨が降ったのは7月6日午後の一時だけ。(為念)



(夕焼けのドリユー 7月5日)



(フランス側のモンブラン)



(シャモニ駅)



(グランドジョラス北壁)



(モンタンバールロッジ)



(メールドグラス 氷の洞窟)



(午後のドリュール 7月5日)

○ツェルマット

列車と登山電車を使いシャモニからツェルマットまで車窓を楽しむ予定でしたが登山電車が運休しシャモニからバスでツェルマット(テシュ)へ。ツェルマットに近づくにつれて重めの曇天に明るさが見えて来ました。こんな時は結構晴れるものでゴルナグラードに登山電車で登り、西欧2番目の高峰モンテローザや迫り来る氷河を見ながらハイキング。時間に余裕があったのでさらにアルピグレンに向けてハイキングを続けました。ただ、残念な事にこの日のマッターホルンの頂は雲の中で明日に期待です。

翌日ははかりと晴れ渡りエギュードミディのリベンジよろしくクラインマッターホルンの展望台(3883m)へ。一端シュワルツゼーまで下り、大量の残雪がもたらしたのかこの時期は終わっているアルペンローゼやチョウノスケ草、更に翁草までもが日向に生えるマッターホルン北壁足下を楽しみました。



(マッターホルン北壁 7月8日)



(ゴルナグラード)



(モンテローザ)



(シュワルツゼーにて)



(クラインマッターホルン展望台)



(ツェルマットから望むマッターホルン)



(逆さマッターホルン 7月8日)

今回はツールドモンブランをお伝えします。

天溪 赤沼

追記

2024年の天溪ツアーから前夜出発のツアーは空港集合日に合わせて旅行日数を数える事にしました。

その結果、欧州方面を中心に旅行日数が1日増えたツアーがありますが、ご旅行内容は以前の日数と変わりません。